

ひ か み あね こ
水上姉子神社み や す ひ め の み こ
宮實媛命

境内末社

元 宮

宮實媛命

神明社

天照大神

玉根社

少彦名命

境外末社

朝亨社

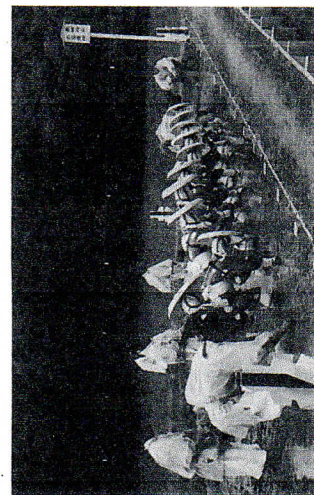
火土老婆靈

由 緒

熱田神宮摂社水上姉子神社は、名古屋市緑区大高町火上山に鎮座する古社で、昔から「お水上さん」と親しく呼ばれ、尾張氏の祖神として、地元はもとより、広く当地方一円の人々の限らない崇敬と信仰を集めています。

当社は、古代尾張の開拓神であつた天火明命の子孫で、当時の尾張国造（現在の地方長官）として、火上の地を本拠としていた乎止与命の館跡（現在の火上山山頂近くの元宮の地）に、宮實媛命を御祭神として仲哀天皇四年（一九五）に創建された由緒深い神社です。御祭神の宮實媛命は乎止与命の女で、古代随一の英雄と讃えられる日本武尊が、東国平定からの帰途この地に留まられた際に結婚され、尊の薨去後は神剣草薙神剣を奉斎守護して、やがて熱田神宮御創祀への貴い道を開かれた方であります。

このお社は持統天皇四年（六九〇）に、火上山のふもとの現在の地に遷座になり、尾張氏をはじめ多くの人々の崇敬を受けながら、約一八〇〇年の歴史と共に今日に至っています。旧社地には元宮が鎮祭され、宮實媛命の館跡として、又当社の創祀を語る地として、大切にされてきました。



大高斎田御田植祭

その後、醍醐天皇の延長五年（九二七）に編纂された『延喜式』には、火土姉子神社と記載され、又貞治三年（一二三四）の『尾張国内神名簿』にも従一位上水土姉子天神とあつて、古くから格式の尊いお社であつたことがわかります。さらに、康正元年（一四五五）十二月には、遷宮を示す棟上げのことが見え（『熱田宮年代記』）、永正六年（一五〇九）九月には、本殿と供御所の御修理が行われた記録（『水上社記』）もあり、江戸時代の貞享三年（一六八六）には、幕府によって御社殿の造営が行われました。現在の御本殿は、明治二十六年の熱田神宮御改造の時までの別宮八剣宮の御本殿を、当社へ移築した由緒の深い建造物です。

宮實媛命と草薙神剣

熱田神宮の御神体である草薙神剣は、八咫鏡（伊勢の神宮内宮に奉斎）や八坂瓊曲玉（皇居内に奉斎）と共に、三種神器と申し上げ、天皇の御位と共に伝えられた貴い御霊です。神話によると、神代のむかし、天照大神の弟の素戔鳴尊が、出雲国（島根県）の簸川の上流において、八岐大蛇を退治して土地の人々の難儀を救われた時、その大蛇の尾から霊威みなぎる尊い剣を獲らえたといわれています。この剣は天照大神に奉られて、その後伊勢の神宮に奉斎されていました。景行天皇の御代、皇子日本武尊は東国平定に先立つて伊勢の神宮に参拝し、斎王の倭姫命からこの神剣を授かり、駿河国で賊の奸計により危機に立たれた際、この神剣で四方の草を薙ぎ払い、逆に迎え火を放つて無事に難をのがれました。この時からこの神剣は草薙神剣と名づけられるようになりました。

乎止与命の子建稲種命を一軍の将として従え、東国平定の大業をおえた日本武尊は、信濃から尾張へ帰還し、遠征の疲れをいやすため火上の里の館に留つて、そこで宮實媛命と結ばれました。ところが休息する間もなく、近江国伊吹山に賊ありと聞かれ、その賊徒平定のため神剣を媛にあずけて、急ぎ彼の地に赴かれたが、病を得て伊勢国能褒野で亡くなつてしまいました。

媛女の床の辺に わが置きし剣の太刀 その太刀 はや

深く神剣のことを心に留められた尊のこの最後の絶唱には、宮實媛命への思いが溢れています。

ここにおいて宮實媛命は、遺された草薙神剣の霊威を畏まれ、床を設け、これに安置して奉仕に務められましたが、その後、吾湯市の熱田の地に社を建て、これに神剣をお移して、奉仕の生涯を捧げられました。尊との御夫婦の語らいも僅かの期間であつたにも拘わらず、尊の御委託されたその使命の重大さをわきまえられて、ひたすら神剣奉斎の日々でありました。その御生涯は、熱田神宮御創祀に連なる道を、一身を捧げて開かれたと云うことが出来ます。

水上・姉子の名称

当社の御鎮座地は大高町火上山ですが、昔は「火高火上山」と称しました。ところが当社及び大高の民家がたびたび火による災害を蒙つたので、それまでの地名から火の字を忌んで、大高水上と改めたといわれています。尚、現在は地名については元の火上山に復しています。

また姉子については、『尾張国熱田大神宮縁起』に、日本武尊が御東征の帰路、甲斐国の坂折宮で宮實媛命を恋い偲んで詠まれたと伝える次の御歌から付けられたと云われています。

年魚市湯 火土姉子は 我れ来むと 床去るらむや あはれ姉子を

氷上姉子神社(ひかみあねごじんじゃ)は、愛知県名古屋市緑区にある神社。式内社で、熱田神宮境外摂社。

目次

- 1 祭神
- 2 歴史
- 3 末社
- 4 祭事
- 5 現地情報
- 6 関連項目

祭神

- 宮簀媛命(みやすひめのみこと)

乎止与命の娘で、日本武尊が東征からの帰途に結ばれた。その後、日本武尊が伊吹山へ出立する際に天叢雲剣を預けられ、その死後には剣を奉斎鎮守し、後に熱田の地に祀ったとされる。

氷上姉子神社



拝殿

所在地 愛知県名古屋市緑区大高町火上山1-3
位置 北緯35度03分41.33秒
東経136度55分48.96秒

関連項目

- 熱田神宮
- 断夫山古墳 - 宮簀媛の陵墓と伝わる。
- 白鳥古墳 - 日本武尊の陵墓と伝わる。

主祭神 宮簀媛命
社格等 式内社(小)
熱田神宮境外摂社
創建 (伝)第14代仲哀天皇4年
本殿の様式 尾張造
例祭 10月1日

地元では「お氷上さん」と呼ばれて篤く信仰されている。交通アクセス

歴史

- JR東海東海道本線 大高駅(徒歩20分) - 約1.5km
- 名鉄常滑線 名和駅(徒歩25分) - 約2km

仲哀天皇4年、天火明命の子孫で尾張国造だった乎止与命(おとよのみこと)の館趾の地に創建されたと伝えられる。持統天皇4年(690年)に火上山の麓の現在地に遷座。旧社地には元宮社が鎮祭されたという。

かつてこの地は「火高火上(ほだかひかみ)」と称しており、『延喜式』には「火上姉子(ほのかみあねこ)神社」と記されている。この地域に火災が度々起き、永徳3年(1382年)には火上姉子神社が被害を受けたことから「火高」を「大高」に、「火上」を「氷上」と改めたとも伝わるが、当社の由緒書には「貞治3年(1364年)の『尾張国内神名牒』には「従一位上氷上姉子天神」と記されていた」ともあり、この部分は若干混乱している。また、後に地名は「火上山」に復して現在に至る。

なお、「姉子」とは「夫のない乙女」の意味で、日本武尊が東征の帰途に宮簀媛命を偲んで詠んだ歌から付けられたと言われている。

現在の本殿は明治26年(1893年)に神明造に建て替えられる以前の熱田神宮の別宮・八剣宮の本殿を移築したもので、戦災を免れた貴重な尾張造である。

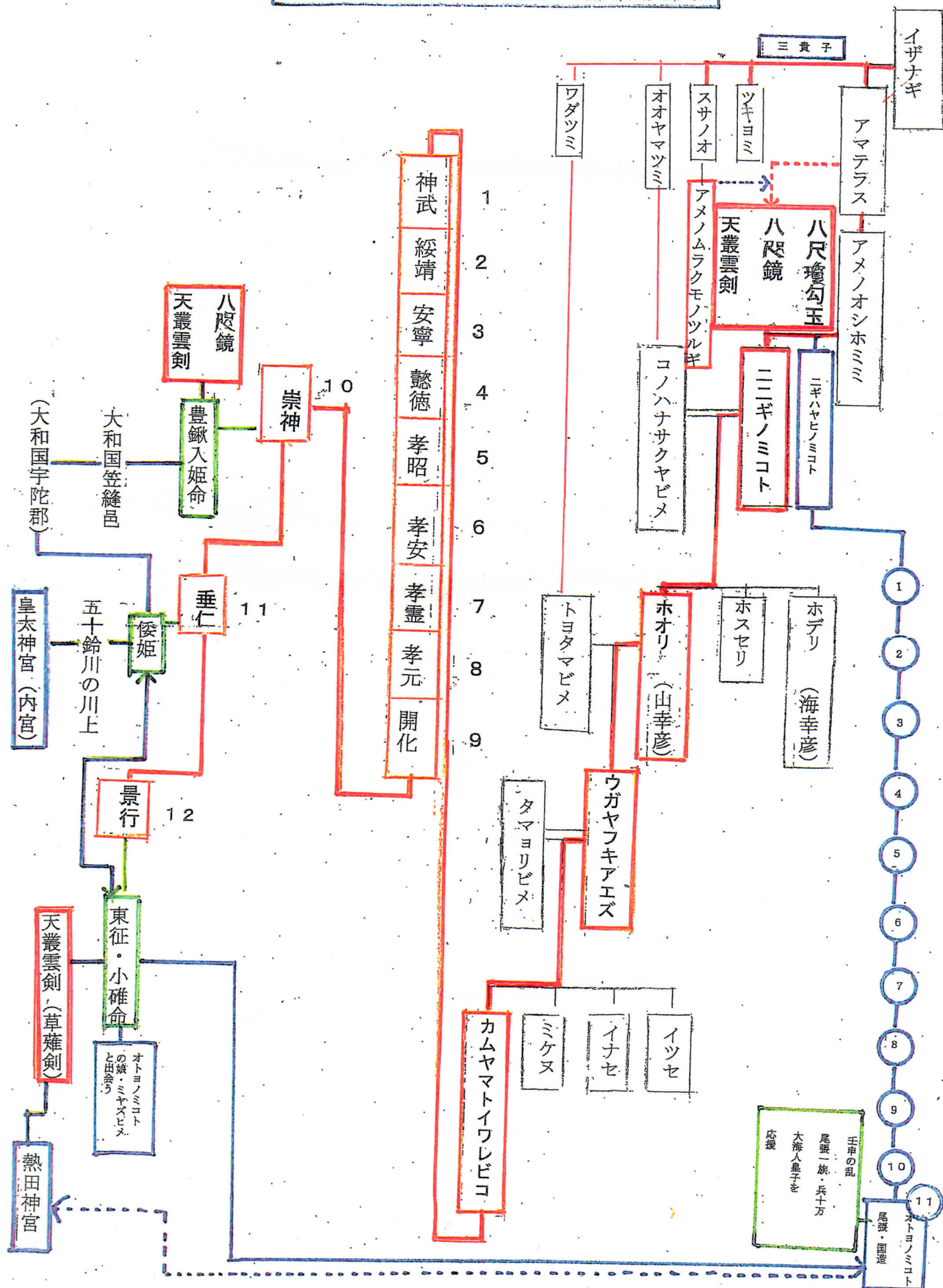
末社

- 境内末社
 - 元宮 - 祭神: 宮簀媛命
 - 神明社 - 祭神: 天照大神
 - 玉根社 - 祭神: 少彦名命

祭事

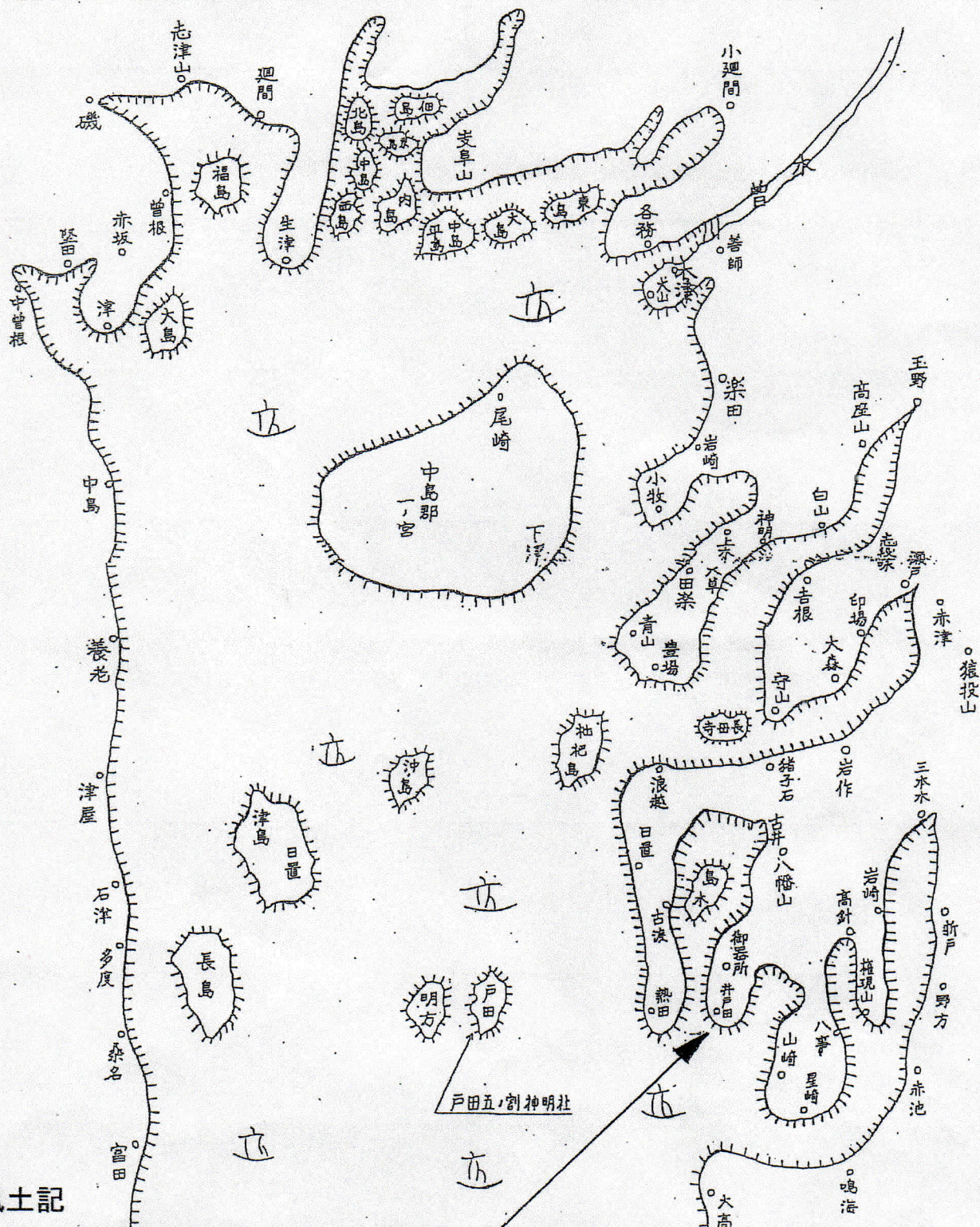
- 太々神楽(3月最終日曜日)
- 頭人祭(5月6日)
- 大高斎田御田植祭(6月第4日曜日)
- 大高斎田拔穂祭(9月28日)
- 例祭(10月第1日曜日)

三種の神器承継の歴史



尾張國 養老元年之圖

(原図今を距る千貳百九拾参年前のもの)
西歴七百十七年



尾張風土記

現在の瑞穂区井戸田町・津賀田町のその昔は、
「海に差し出たるその様、島の如く流人を置きても逃れがたき地なり」
と、言われていた。 一罪人流謫の地—

藤原師長—仏門名—妙音院—治承3年—1179年